

- 語り合う
- 生命誌の広場
- 中村桂子の「ちょっと一言」
- ラボ日記
- 表現スタッフ日記
- さまざまな交流
- 生命誌のこれからを考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

研究について

発生のしくみ

投稿日：2018.02.25 ニックネーム：ミッキー

中村館長こんにちは。初めて投稿させていただきます。最近岡田節人先生の「からだの設計図」を読みました。発生におけるホメオ遺伝子やカドヘリン接着分子の働きに驚きました。特にマスター遺伝子と呼ばれるホメオ遺伝子の発現は、その配下の多くの関連遺伝子たちを将棋倒しのように次々と発現させて行くことによって、体づくりが進むのだそうです。言わば自然に流れるように体づくりが進むということでした。生き物はなんて巧妙にできているのだろうと感動しました。命の不思議さを感じました。とはいえ、どの遺伝子を「いつ」発現させるのかという時間的制御や同期はやはり必要なのではないかと感じます。例えば、左右の手足の対称性を維持しながら発生を進行させるためにもなんらかの同期が必要なのでは？ひょっとしてヒトの24時間強周期のサーカディアンリズムを全身に伝える仕組みの原型のようなものが発生の段階に存在するのではないかと思います。1994年初版の本ですので最近の研究があればお教えいただければ嬉しいです。よろしくお願いします。

お返事

投稿日：2018.03.01 名前：中村桂子館長

岡田先生の著書をお読み下さったとのことありがとうございます。本質を読みやすく伝えるとてもよい本ですので、お楽しみになれたと思います。おっしゃる通りその後、まさに発生の研究はどの遺伝子をどこでいつ発現させるかという方向に進みました。ゲノム解析で当初はたとえばヒトゲノムの1.5%しかタンパク質を指令せず、あとはガラクタと言われていましたが、今では残りのDNAの多くがまさにどれを、いつ、どこで関わっていることがわかってきています。そのようなことがわかる本の一つとして「発生遺伝学－脊椎動物のからだと器官のなりたち」（武田洋幸・相賀裕美子著、東京大学出版社）を御紹介します。岡田先生の御本を超えるものは見つからず、教科書風ですが。試みていただければ幸いです。

中村桂子の「ちょっと一言」

一粒の麦も

投稿日：2018.02.08 ニックネーム：竹ちゃん

中村館長さんの教材文「生き物はつながりの中に」光村6年の出前授業を1月の最終週の3日間で5時間行いました。6年生は10名小規模校です。当日は、インフルエンザで2名欠席でした。この教材での授業は4年ぶりです。前は6月頃の教材でしたが、今回は、卒業を前にしての最後の単元の一つになっていました。他は谷川修太郎さんの詩「生きる」とドナルド＝キーンさんの「かなえられた願いー日本人になること」です。非常に格調の高い単元構成になっています。前の教科書では、時期が早く、理科の人体の学習が済んでいなかったのですが、今回は、消化・吸収、食物連鎖などについても知識がありましたのでより楽しいものになりました。今回は、次の3点について報告

- 1 詳しく読みたい段落2つ
 - ①「生命の歴史」全員、②「自分の一部」と「一つの個体」に割れた。

新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

II この話は「私たち生き物はつながりの中にあるんだなあ。」ということになった。

III 授業後の一言感想とお礼の言葉の中に

「この話は読めば読むほど発見がある。」

「国語の授業は、奥が深いなあ。」

があった。

この授業後に、吉野源三郎・羽賀翔一の「君達はどう生きるのか」を学級に贈りました。自分を振り返る子供たちの感想文を読んで、その気になりました。中村先生に担任から感想が送られると思っています。欠席の子にも書かせたいという話でした。素直な子供たちの感想をお楽しみください。

お返事

投稿日：2018.02.09 名前：中村桂子館長

いつもありがとうございます。「生きものはつながりの中に」は、私にとっても子どもたちとの思い出の多い大事なものになっています。とくに小さな学校からはたくさんお手紙がきました。小さな学校のよさを感じます。



中村桂子の「ちょっと一言」

命を食べて生きている

投稿日：2018.02.07 ニックネーム：やっちゃん

深く知れば知るほど生命の仕組みの深さに驚きます。生き続けることを最優先する生命維持の仕組みは、動物にも植物にも共通です。水と光と土から栄養分を吸収する植物は、理想の生命体だと思います。野菜を食べる理由が分かります。生命を維持するために移動しながら栄養物を取り込む動物は、エネルギーを大量消費するため多様なエネルギー供給が必要です。食べ物に注意が必要な時代に入ったと感じます。安全だと思っていた水や土が変化し、魚・肉・野菜までも変わってしまえば、それを取り込むヒトも変わるのではないかと不安です。

お返事

投稿日：2018.02.09 名前：中村桂子館長

BRHの原点は「人間は生きものであり、自然の一部」というあたりまえのことです。食べることは生きることの基本ですから、ていねいに考えなければならぬという気持は大切です。



中村桂子の「ちょっと一言」

祝！BRH設立25周年

投稿日：2018.02.05 ニックネーム：タバコの葉

BRHの皆様 設立25周年記念 おめでとうございます。
館長が、この「道」に入られた時（500人中に女性3人）の感想の文章も読ませていただきました。「リケジョのパイオニア」だったのでしょね？ また、今年のBRHのテーマは、「容」ですね！色々な解釈が含まれている文字だと思います。またこの、一文字は、近々の切迫したテーマの様にも感じます。今、聞いたニュースでも、UAEの「原子力施設」にミサイル攻撃があった模様で、日本にも影響があるかもしれません。館長が、ご指摘されている様に、人類の危機が迫っている気がします。また、世界「終末時計」が、24:00に少し近づきました。AIと、人間の関係性の問題のご指摘や、日本の国債情勢の「立ち位置」等、諸問題は多いですが、日本では、新天皇のご即位や、東京オリンピック・パラリンピックの各種国際大会の開催の予定も続いており、貴研究館も新たな「希望に満ちた目標」を立てて、研究の前進、国際的認知度の向上、等へまい進されることを願っております。季節柄（暦上は春なのですが）一層寒くなりますので、お体ご自愛を！

お返事

投稿日：2018.02.09 名前：中村桂子館長

応援ありがとうございます。おっしゃる通り、アメリカの大統領が核開発再開を言い始めるなどおかしな方向に動いています。あくまでも研究という立場からですが、社会の一員として皆が生き生き暮らすという本来あたりまえのことをあたりまえにできる社会につながることを考えたいと思います。



RE.生物の進化について教えてください

投稿日：2018.02.01 名前：神谷博行

早速にご回答いただきありがとうございます。生物、生命について、いまだわかっていないことが、たくさんあるのだと思いました。

お返事

投稿日：2018.02.09 名前：中村桂子館長

「まだわかっていないことがたくさんある」ということはその通りです。私たちの実感は、「一つわからせるともっと難しい問いが生れてくる」というところでしょうか。学問は「わからないことをふやしている」のかもしれない。

▲ ページの先頭へ